



Title	吐魯番出土文物研究会会報 第11号（墳墓一覽号）
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1989, 11, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78821
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

吐魯番出土文物研究会会報

1989年4月15日
吐魯番出土文物研究会

第11号

(墳墓一覽号)

哈拉和卓古墳群墳墓一覽表

荒川正晴 編

【はじめに】

第8号～第10号に載せた阿斯塔那古墳群の墳墓一覽表に引き続き、哈拉和卓古墳群の墳墓の一覽表を掲載する。当古墳群については、阿斯塔那に比べ情報も少なく、空欄とせざるを得ない部分が多いが、同じく高昌城（カラホージャ）近郊に位置し、ほぼ同一時期に形成された古墳群であり、これらを切り離して考えることはできない。ここに一括して掲げ、参照の便宜をはかることとする。凡例及び注の略語については、阿斯塔那古墳群の墳墓一覽表と同様なので、第8号の1頁、ならびに6頁を参照されたい。

①番号	②年	③埋葬者	④没年	⑤墓	⑥随	⑦文	⑧頁数
TKM 1	64		<延壽16年-貞觀14年(639-40)>	無	無	4	1-30
TKM 2	64						
TKM 3	64		建康36年(348)(柩)※18		無	1	1-3
TKM 4	64						
TKM 5	64		【麹氏高昌国時期】	無	無	2	315-24
TKM 6	64						
TKM 7	64						
TKM 8	64						
TKM 9	64						
TKM 10	64						
TKM 11	64						
TKM 12	64	宋懷仁※5	龍朔3年(663)(墓)	1方			
TKM 13	64						
TKM 14	64						
TKM 15	(69)※3						
TKM 16	(69)						
TKM 17	(69)						
TKM 18	(69)						
TKM 19	(69)						
TKM 20	(69)						
TKM 21	(69)						
TKM 22	(69)						
TKM 23	(69)						
TKM 24	(69)						
TKM 25	(69)						
TKM 26	(69)						
TKM 27	(69)						

①番号	②年	③埋葬者	④没年	⑤墓	⑥随	⑦文	⑧頁数
TKM 28	(69)						
TKM 29	(69)						
TKM 30	(69)						
TKM 31	(69)						
TKM 32	(69)						
TKM 33	69		【魏氏高昌国時期, 延昌27年(587)以後】	無	無	2	282-300
TKM 34	(69)						
TKM 35	(69)						
TKM 36	(69)						
TKM 37	(69)						
TKM 38	69	汜崇慶(隨)	延昌32年(592)(隨)		1件	2	309-12
TKM 39	69		【貞觀14年-永徽2/3年(640-51/52)】	無	無	6	100-22
TKM 40	(69)						
TKM 41	(69)						
TKM 42	(69)						
TKM 43	(69)						
TKM 44	(69)						
TKM 45	(69)						
TKM 46	(69)						
TKM 47	(69)						
TKM 48	69		【魏氏高昌国時期-永徽元年(650)】	無	無	4	282-96
TKM 49	(69)						
TKM 50	69	張德淮(墓)	延昌5年(565)(墓)	1方	無	2	140-79
TKM 51	(69)	張孝貞/妻・索氏2人(墓), 合葬・D※6	妻1・章和7年(537)(墓), 妻2・延昌4年(564)(墓)	2方			
TKM 52	(69)	張幼達/夫人・宋氏(墓)※7		1方			
TKM 53	(69)						
TKM 54	(69)	張文智(墓)※8	章和7年(537)(墓)	1方			
TKM 55	75※4						
TKM 56	75		【武周時期(695-705)】※19	無	無	7	312-14
TKM 57	75						
TKM 58	75						
TKM 59	75						
TKM 60	75	張興明/夫人・楊氏(墓)※9		1方			
TKM 61	75						
TKM 62	75						
TKM 63	75						
TKM 64	75						
TKM 65	75						
TKM 66	75						
TKM 67	75						
TKM 68	75						
TKM 69	75						
TKM 70	75						
TKM 71	75						
TKM 72	75						
TKM 73	75						

①番号	②年	③埋葬者	④没年	⑤墓	⑥随	⑦文	⑧頁数
TKM 74	75	賈永究(墓)※10	延壽16年(639)(墓)	1方			
TKM 75	75						
TKM 76	75						
TKM 77	75						
TKM 78	75						
TKM 79	75	賈謙恕(墓)※11	延昌36年(596)(墓)	1方			
TKM 80	75						
TKM 81	75	賈阿善(墓)※12	延和7年(608)(墓)	1方			
TKM 82	75	賈容兒(墓)※13	延壽10年(633)(墓)	1方			
TKM 83	75						
TKM 84	75						
TKM 85	75						
TKM 86	75						
TKM 87	75						
TKM 88	75	蘇娥奴(柩)※14	建初7年(495)(柩)<建初2年-承平5年(490-506)>※20		無	1	178-82
TKM 89	75		<章和11年(541)>	無	無	2	27-9
TKM 90	75	阿苟母(随)	<永康17年(482)>	無	1件	2	1-26
TKM 91	75		<建初4年-建平5年(408-41)>※21		1件	1	110-74
TKM 92	75						
TKM 93	75						
TKM 94	75						
TKM 95	75						
TKM 96	75	宋洋妻・隗儀容(随), 翟氏(随)	隗儀容・真興7年(425)(随), 翟氏・龍興某年(432-42)(随)<玄始12年-龍興某年(423-42)>※22	2件	1		58-96
TKM 97	75						
TKM 98	75		【十六国時期】		無	1	211-16
TKM 99	75	苻氏(随)／妻・張世容(随)※15	夫・建平6年(442)以後, 妻・建平6年(442)(随)<建平6年-延昌22年(442-582)>	2件	1		183-95
TKM100	75						
TKM101	75						
TKM102	75		【貞觀14年-開元年間以前(640-713)】	無	無	8	4-8
TKM103	75	合葬墓	<儀鳳2年(677)>	無	無	6	595-96
TKM104	75						
TKM105	75						
TKM301	(66)	傅僧平(墓)※16	重光4年(623)(墓)	1方			
TKM306	(66)	傅子友(墓)※17	延昌40年(600)(墓)	1方			
TKM383※1	84	高耀(墓)	広徳4年=永泰2年(766)(墓)※23	1方			
TKM不明 ※2	(75)	朱阿定(墓)／妻・楊氏(墓)	夫・章和7年(537)(墓), 妻・章和13年(543)(墓)	2方			

【注】

- (1)この墳墓については、吐魯番地区文管所による発掘報告がある(「唐北庭副都護高耀墓発掘簡報」『新疆社会科学』1985年第4期, pp. 60-8)。
- (2)侯燦論文、Ⅲ. 4, 5(p. 30)。当墳墓については、第10号(p. 4)の付表と注(1), 参照。侯燦氏の主張する発掘場所や年次が正しければ、TKM55-105のどれかである可能性は高い。
- (3)15号墓より54号墓までについては、1966年から69年にかけて行なわれた発掘作業において墳墓番号が付されたものであるが(『文物』1972年第1期, p. 9)、その中には未整理の三〇墳墓を含んでいる。(69)としたのは、「概述」に拠っている。
- (4)55号墓より105号墓までは、1975年の発掘に係るが、ただしそのうちの一つは、1976年に

整理されている(『文物』1978年第6期, p. 1)。

- (5)侯燦論文, №. 152 (p. 47)。(6)侯燦論文, №. 2, 25 (p. 30, 33)。
(7)侯燦論文, №. 137 (p. 45)。侯燦氏は、出土遺品から当墳墓を麴氏高昌国の延昌年間以前
のものと推断する。(8)侯燦論文, №. 1 (p. 30)。
(9)侯燦論文, №. 138 (p. 45)。これも侯燦氏は、延昌年間以前の墳墓とし、さらに伴出の墓埴
を麴氏高昌国時代の墓埴史料として利用する(侯燦論文, p. 70)。これについては、拙稿
「麴氏高昌国の郡県制の性格をめぐって-主としてトルファン出土資料による-」(『史学雑誌』第95編第
3号、1986年)p. 56, 参照。
(10)侯燦論文, №. 136 (p. 45)。(11)侯燦論文, №. 76 (p. 38)。
(12)侯燦論文, №. 91 (p. 40)。(13)侯燦論文, №. 127 (p. 44)。
(14)この蘇娥奴の柩銘は、99号墓の墓道より出土したものだが(『文物』1978年第6期, p. 1)、
もともと88号墓に埋葬されていたものと認められる。なお、白須浄真「吐魯番出土文書
第一冊』-その断片と紀年の考-」(『書論』第18号、1982年) p. 157, 参照。
(15)この墳墓には、張世容の隨葬衣物疏のほか、「苻長資父母墟墓隨葬衣物疏」が伴出してい
る。前者(建平6年作成)は、女屍の頭部から出土していることから、後者は、男屍埋葬時点
の作成(建平6年以後)に係ると判断される(白須、前掲論文, p. 160, 参照)。
(16)侯燦論文, №. 111 (p. 42)。(17)侯燦論文, №. 82 (p. 39)。
(18)この柩銘については、『文物』1973年第10期, p. 12, 52, 白須、前掲論文, p. 132, 参照。
(19)これを695年以降としたのは、伴出した武周時代の文書に見える則天文字の「国」という
文字が、天冊萬歲元年(695)9月9日に制定されたことによる。藏中進「則天文字の成立と
その本邦将来-『新唐書』新詔を中心に-」(和漢比較文学学会編『和漢比較文学研究の構想』汲古
書院、1986年)p. 177, 参照。
(20)建初2年が、490年に比定し得る可能性については、白須、前掲論文, p. 142, pp. 158-9, 参
照。また承平の元号についても、白須、前掲論文, pp. 159-60, 同「高昌王・麴嘉の即位年次
について-呉詒の断片をめぐって-」(『小野勝年博士頌壽記念東方学論集』竜谷大学東洋史学研
究会、1982年)pp. 192-4, 参照。
(21)建平の元号については、関尾史郎「「建平」の結末」(『新瀉史学』第19号、1986年), 参照。
(22)真興の元号については、関尾史郎「北涼政権と「真興」奉用」(『東洋史苑』第21号、1982
年), 参照。また龍興についても、関尾史郎「「龍興」紀年の隨葬衣物疏考」(『史朋』第21
号、1987年)、及び呉震「吐魯番文書中の若干年号及相關問題」(『文物』1983年第1期)を参
照されたい。
(23)広徳という元号は、2年までしか使用されておらず、墓埴に見える広徳4年4月は、永泰2
年(766)にあたる。吐魯番地区文管所、前掲論文, p. 63。

訂正 第10号に載せた「阿斯塔那古墳群墳墓一覧表」のうち、509号墓の欄を空白に
しましたが、呉震氏の論文<「吐魯番出土的“敦煌文書”」『1983年全国敦煌學術討論會文集』文史・遺書編(上)、甘肅人民出版社、
1987年, p. 456, p. 457注(13)>に、開元25年(737)に没した張運感とその妻(大周歲次庚寅
<690>没)が当墓主であることが、伴出の墓埴により指摘されておりました。ここに改め
て同表同欄を補訂させていただきます。

事務局(連絡先) 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川正晴方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会(The Research Society for Turfan Relics)